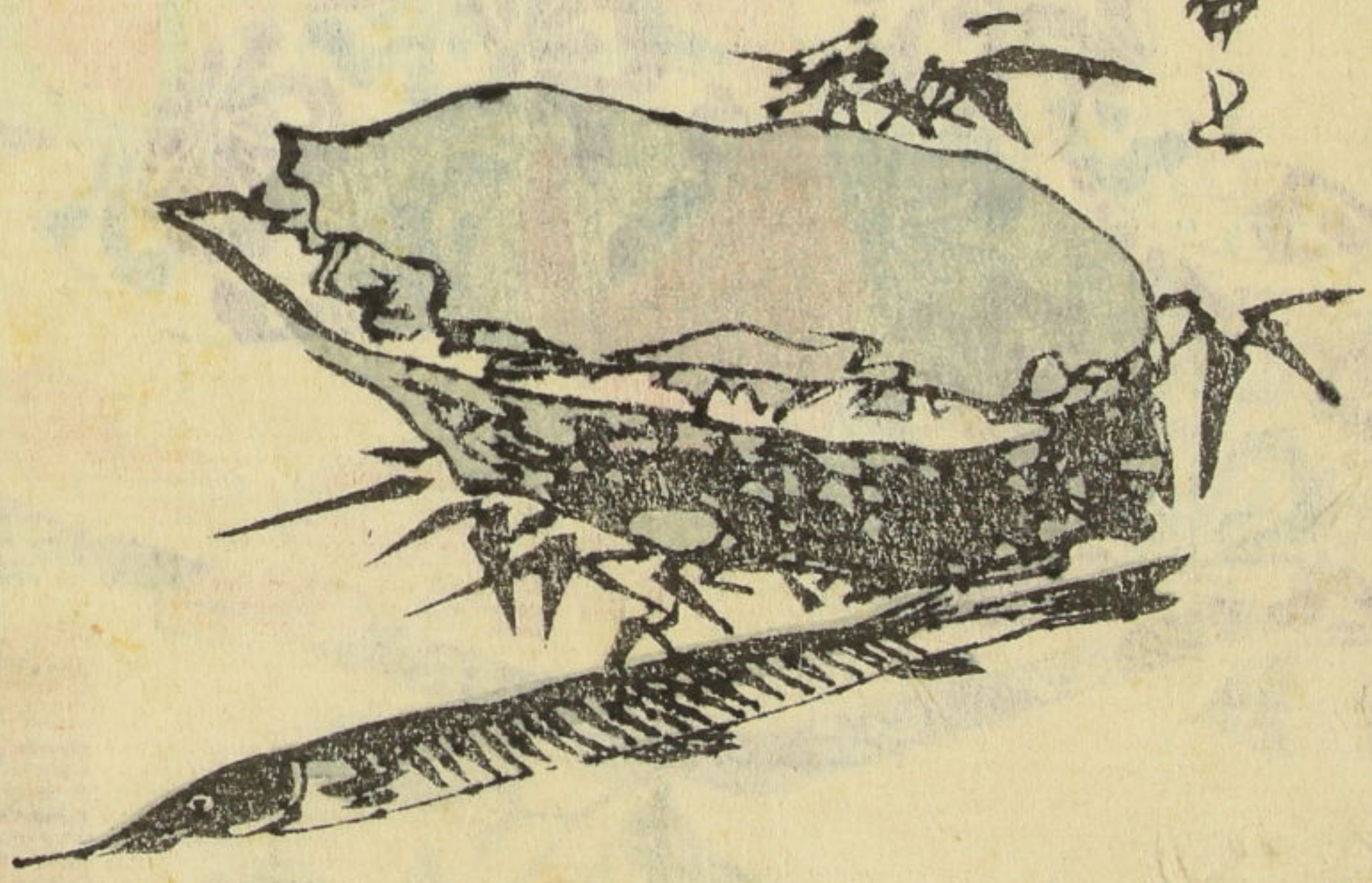


~ 13
3735
25



十二と
 あけつす
 すととの
 くらま
 神々化
 回りる



文鴉月夜鳥うらまがら病鴉種々の可良須ある中明鴉と
 りの婀娜さやうあゝ新内節の愛形あらんその浦里と時次郎が
 戀ぞ積まる夢の沫雪文句とくもおろろあはる借敷度云こゝろ
 色めかき世敷あまの老毛叟の極めて應をき其上のりつこも
 初代浦里が薄命と小織助の流浪あどめて十編餘の長談時次郎
 のあはれあまを鳥と酒有て肴あく大夫有て三糸あく画有て讀まは
 艸紙の如く弦多は弓の響きねど投ても當る一枝の矢の雁股くまろ
 ちりあちり十三編を運歩てんこれと二代の浦里未興女見次郎とあるは
 鐺一却て早十四五歳其間の年曆を合せん爲の合の狂言何とあらうを
 太郎冠者とまゝ一段且しかくを餘事へ省畧て急いで參らう後の山名屋の
 段まゝお待遠ゆいあまのぞく

丁卯歳首

柳の種老





豆の茶
左注所

忠僕四郎平



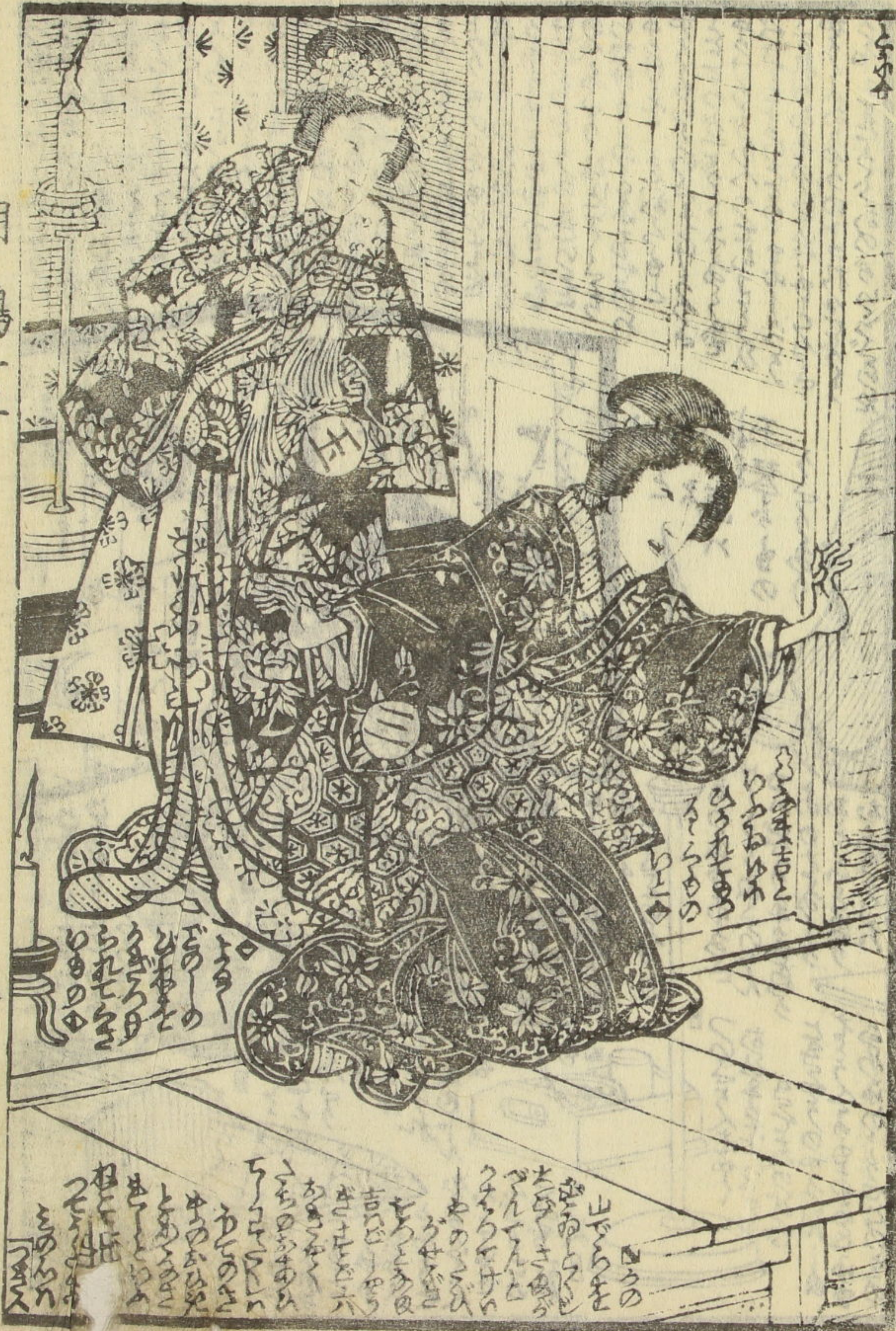
駒ヶ丸
湯立
場

石橋家
菱
中
作
先
志

侍女三原

明
雅
十三





上
 下
 左
 右
 中
 前
 後
 内
 外
 上
 下
 左
 右
 中
 前
 後
 内
 外



上
 下
 左
 右
 中
 前
 後
 内
 外
 上
 下
 左
 右
 中
 前
 後
 内
 外



種彦作 國貞画



本家 實母散
 本方実母さんの養の中より、ある人土町一丁目西の方
 の半来賣野郎の店を色々見て、お返しに
 四つ折りの引うづり十のちのちお返しを
 中橋南傳馬町一丁目東の方
 十葉堂孝輔製

新局九尾傳

四編 九編
 梅蝶樓國貞重
 為永春水作

鼠洞通夜譚

初編 追々出版
 柳阜種彦作
 梅蝶樓國貞重

信列鼠の里の和泉小僧と云少年鎌倉殿の此止三浦二階
 諸大家の許りの財寶と盗と名を高くし物語耳新
 和列山辺氏の良慶の事蹟小綴合せ

